

OCHA-SDGs 学生委員会

2024 年度 活動報告書



お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

OCHA-SDGs 学生委員会 2024 年度 活動報告書 目次

I OCHA-SDGs 学生委員会について	1
II 2024 年度の活動	
1. Sustainability Week 開催	1
2. プラントベースフード新商品販売・試作会および横浜市立南高等学校取材対応	2
3. mottECO 普及イベントにてブース出展	4
4. 文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ参加	5
5. クールアースフェア出展	6
6. 株式会社モリサワ共催「伝わる発表資料の作成講座」開催	6
7. 徽音祭出展	8
8. 規格外野菜を活用したアップサイクル製品の販売及び普及啓発活動	8
9. フードドライブ開催	9
10. 台北医学大学との国際カンファレンスでポスター発表	10
11. 東京都環境公社第3回サーキュラーエコノミーサロン発表	11
12. シェアリングサービスプロジェクト おゆずりフェス開催	12
13. マイボトルを持とうプロジェクト ウォーターサーバー設置	13
14. 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会参加	14
15. おにぎりアクション 2024 参加	14
16. 手話ベリプロジェクト	15
17. 企業×お茶大 ガチンコ SDGs	16
III SDGs 推進研究所について	17

I OCHA-SDGs 学生委員会について

OCHA-SDGs 学生委員会はお茶の水女子大学 SDGs 推進研究所（2022 年 4 月発足）の学生組織として立ち上げられた。学生が主体となり、「生活者起点の SDGs」をテーマに各々の興味関心に従って活動を行っている。プロジェクトによっては附属学校園や企業、自治体との連携も活かして活動を展開している。

II 2024 年度の活動

OCHA-SDGs 学生委員会は 2022 年度に活動を開始している。2023 年度は Education for Sustainable Development (ESD) 班、食班、環境班の 3 班に分かれて活動していたが、2024 年度からはプロジェクト制へと移行し、各々が興味のあるプロジェクトに所属する体制での活動を行っている。

1. Sustainability Week 開催

2024 年 4 月 22 日（月）～4 月 27 日（土）に、他大学連携 SDGs イベントである Sustainability Week 2024 を開催した。このイベントのテーマは、「SDGs について自分ごととして考える 1 週間」であり、①地球環境に関心を持つ人材の育成、②大学の壁を越えた交流、③社会への発信を主な目的として実施した。昨年度 9 月から、UTokyo GXSN（東京大学）、プラごみ減らし隊（東京農工大学）、ECHO UT（筑波大学）、OCHA-SDGs 学生委員会（本学）の 4 大学の学生組織で、Japan Sustainable University Network を結成し、共催という形式でこのイベントの準備を進めていた。

（後援：東京大学、東京農工大学農学部、筑波大学、本学 SDGs 推進研究所、各大学生協、図書館）

4 大学間で共通した企画として、Sustainability Talks（講演会）やワークショップを実施した。本学の Talks（講演会）には、本学教員 8 名と環境省のデコ活用応援団の方 2 名が登壇し、SDGs に関する大変貴重な研究や講話を拝聴した。対面とオンライン合わせて、70 名近くの参加があった。

ワークショップでは、UTokyo GXSN の方を中心に企画した、Boomerang Workshop を開催した。Boomerang には、「人の活動の影響が結果的に人に返ってくる」という意味が込められている。



（Sustainability Talks の様子）



（Boomerang Workshop の様子）

また、大学別企画として、本学では、附属図書館での SDGs 図書展示や、プラントベースドフードの学食販売を実施した。プラントベースドフードは Ochas (大学公認サークル) とのコラボ企画で、300 食以上もの売り上げとなった。



(SDGs 図書展示)



(プラントベースドフードのポスター)

最終日は、4 大学の枠組みを超えて複数の大学の学生組織が対面で集まり、大学間交流イベントを開催した。Climate Fresk という環境問題を体系的に理解できるカードゲームなどを通して、他大学の学生との関わりを作ることができた。今回のそれぞれの企画の成果を、今年度以降の活動に活かすとともに、今後も他大学の学生との繋がりを大切にしながらこのイベントを発展させていきたい。



(Climate Fresk の様子)

2. プラントベースドフード新商品販売・試作会および横浜市立南高等学校取材対応

OCHA-SDGs 学生委員会は、2023 年度から本学公式サークルである Ochas と連携し、生協食堂ランチメニューにおけるプラントベースドフードメニューの提案を行っている。2024 年度は 7 月に第 4 弾と 12 月に第 5 弾の販売を行った。

第 4 弾

【日時】2024 年 7 月 22 日 (月) ～7 月 26 日 (金)

【内容】夏野菜の冷製豆乳うどん、大豆ミートと夏野菜の甘味噌炒め

第4弾では2品を考案し、試作を経て販売した。5日間を通し、夏野菜の冷製豆乳うどんは325食、大豆ミートと夏野菜の甘味噌炒めは180食の売り上げとなった。また同期間には、生協食堂出入り口にアンケートボードを設置してプラントベースフードに関するアンケート調査を実施した。本学学生・教職員併せて、学内から100名以上の回答があった。



(試食会の豆乳うどん)



(試食会の甘味噌炒め)

第5弾

【日時】2024年12月16日(月)～12月20日(金)

【内容】アーモンドミルクのかぼちゃスープ

第5弾では2023年度のプロジェクト開始当初より人気の高かった“ライスミルクのかぼちゃスープ”(第1弾)をリニューアルした、“アーモンドミルクのかぼちゃスープ”を販売した。5日間で132食を提供し、全日完売した。販売メニューの改善にあたり、これまではプロジェクトメンバー(学生委員会およびOchas)で開催してきた試食会を学内で公開し、約20名のお茶大生や教職員が参加した。3種類のプラントベースミルクと味付けに使う香辛料の選定についてフィードバックを得た。参加者からは「とても楽しかった」「また同様の機会があったらぜひ参加したい」といった肯定的な感想があり、メニューに関し率直な意見を得る機会が得られた。また、同期間に生協食堂出入り口に設置したアンケートボードには、本学学生を中心とした約90名からの回答があった。



(アーモンドミルクのかぼちゃスープ)(完売した時のポスター)



※3 シナモンがトッピング
されている



(試食会の様子) ※3

また 2025 年 2 月 12 日（水）、OCHA-SDGs 学生委員プラントベース企画のメンバー2 名が、横浜市立南高等学校（以下南高校）を訪問した。今回は、プラントベースについて探究学習を行っている高校 1 年生 4 名と、学生食堂でのプラントベースランチの実現に向けて検討している高校 2 年生 2 名から、それぞれの活動についてのお話を聞くことができた。本学学生委員は、プラントベース企画で実施している、本学生協食堂でのメニュー開発について説明した。学外の方々と意見を交わす貴重な機会となっただけでなく、高校生の意欲的な姿勢にも触れることのできた大変有意義な時間となった。

3. mottECO 普及イベントにてブース出展

2024 年 7 月 29 日（月）に、ホテルメトロポリタンエドモント 2 階（東京都千代田区）にて、産官学アライアンス「mottECO 普及コンソーシアム」主催の mottECO FESTA2024 が開催された。食品ロス削減を中心とした SDGs、資源循環等、環境に関わる啓発を目的とし、関係省庁・大学・事業者等による食品ロス削減の取り組みを紹介するブース出展や、パネルディスカッション・講演会・もったいないメニューの試食等が行われた。

～食べ残しをなくそう！～食品ロス削減 mottECO FESTA 2024

【日時】 2024 年 7 月 29 日（月） 10:30～14:00

【場所】 ホテルメトロポリタン エドモント 2 階（東京都千代田区飯田橋 3-10-8）

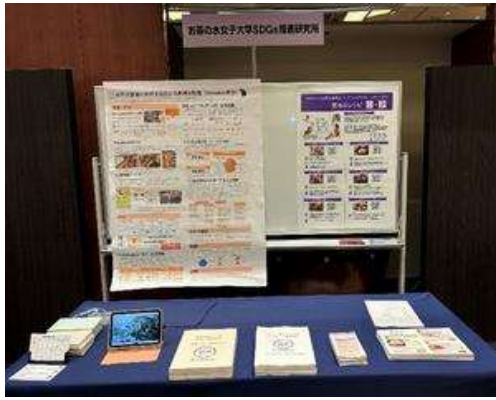
【内容】

- ・食品ロス削減の取り組みを紹介するブース出展（mottECO 普及コンソーシアムに加盟する民間企業、都内自治体、関係省庁、大学等による出展）
- ・各ステークホルダーによるパネルディスカッション
- ・食品ロス削減についての講演会
- ・もったいないメニュー等の試食

本研究所では、本学における食品ロス削減に関する取り組み^{*1,2}をポスターにまとめて出展した。研究所や OCHA-SDGs 学生委員の取り組みに関する資料（研究所リーフレット、事業報告書、賢者のレシピ^{*2}、OCHA-SDGs 学生委員会活動報告書、OCHA-SDGs カレンダー等）を配布し、本研究所の取り組みの広報も行った。

^{*1}OchaEco 弁当：生協食堂昼食営業の売れ残りをお弁当に詰め、限られた時間に限定数量で販売するものである。2023 年度に学生委員と本研究所研究員赤松利恵教授が、本学生協食堂と協働し、食品ロス削減のため実現させた。（2023 年度事業報告書 p.78）

^{*2}賢者のレシピ：本学と SDGs 包括協定を結んでいる株式会社セブン&アイ・ホールディングスの運営する、インターネット上に掲載されたレシピ集である。食材を育てる人も、調理する人も、食べる人もみんなが HAPPY になることを目指し、環境負荷の軽減や食品ロス削減などを考慮してムダなく美味しく、誰でも楽しく簡単に作れるレシピが掲載されている。2023 年度に当時の OCHA-SDGs 学生委員が考案したレシピが掲載された。（2023 年度事業報告書 pp.52-53）



(本研究所出展ブースの様子)



(来訪者との交流)

『mottECO (モッテコ)』とは、中央省庁（環境省、農林水産省、厚生労働省、消費者庁）が推奨する、食べきりや適量注文はもちろん、外食先での食べ残しの持ち帰りを推奨することで、官民一体で食品ロス削減を目指す取組である。本研究所では 2023 年度に、伊藤研修センターの見学を通し、本事業に関する意見交換を行った（2023 年度事業報告書: pp.53-55）今年度も、生活者がどのように食品ロス削減に取り組んでいるか、学生ならではの発想を活かしたプロジェクト活動を行っている。

4. 文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ参加

2024 年 8 月 9 日（金）、文京シビックセンター（文京区役所）で行われた、「文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ」に参加した。

文京区資源環境部環境政策課の企画により実現したこのワークショップでは、本学を含めた文京区内の 5 大学の学生が一つのグループとなり、2050 年に向けたゼロカーボンシティの姿とそれに向けた取り組みについて、グループディスカッションをして発表した。

本学学生委員会では「生活者起点の SDGs」をテーマとしているため、個人が日常の中でできるアクションを中心に考えた。一方で他大学の参加者は「東京ドームシティの屋根を全て太陽光パネルにする」などの大規模なアクションを提案しており、様々な大学の学生が集まって議論することで、多くの新たな発想を生み出すことができた。議論は文京区の職員も交えて進められ、文京区の行動計画をもとに環境に関する政策提案をするという、貴重な機会を得ることができた。



(本ワークショップで提供されたイラスト)



(参加したグループの発表模造紙)

5. クールアースフェア出展

2024年8月10日（土曜日）午前10時～午後3時に、文京シビックセンターで開催された「クールアースフェア」で、活動紹介に関する展示やワークショップを行った。



（クールアースフェア 2024 のチラシ）



（本学のブース）

学生委員会は、「サステナ・ワールド～みてわかるかいてつくる幸せな未来の絵本～」というタイトルで出展した。このワークショップは、子どもたちを中心に幸せな世界を想像してもらい、自由に描いてもらった絵を使って、絵本を作ることを目的とした。また、東京大学 GX 学生ネットワークと東洋大学 SDGs アンバサダーと共同し、SDGs に関するスタンプラリーも実施した。本企画にも、年齢問わず多くの来場者が参加した。

6. 株式会社モリサワ共催「伝わる発表資料の作成講座」開催

2024年10月16日（水）、23日（水）に株式会社モリサワと協働し、伝わる発表資料の作成講座を開催した。会場では各回約30名の本学学生・教職員の参加があり、一部 Zoom の参加も併せて盛況のうちに閉会した。

株式会社モリサワ：デジタルフォントの開発・販売を行う国内有数のフォントメーカーとして、「文字を通じて社会に貢献する」を社是に「持続可能な社会のためのビジョン」を策定し、企業市民の一員として SDGs に取り組んでいる。

【対象】 本学学生・教職員（対面）、教育機関に所属する一般の方（Zoom）

【講師】 株式会社モリサワ 橋爪 明代 氏（第1回）

株式会社モリサワ 縄田 萌 氏（第2回）

【日時と内容】

第1回 10月16日（水）13：00～14：30

「ユニバーサルデザイン×フォント UD フォントって知っていますか」

- ・ ユニバーサルデザイン、UD フォントとは
- ・ 資料作成のポイント説明
- ・ スライド作成ワーク
- ・ 講評

第2回 10月23日（水）13：00～14：30

「スッキリはっきり伝わる！—『フォントで魅せる』—私の資料作成講座」

- ・ フォントとは？
- ・ フォントの作られ方
- ・ フォントの種類・要素
- ・ フォントを選ぶワーク

【会場】 大学本館 3階 306 室および Zoom（株式会社モリサワ提供）

【参加費】 無料

【主催】 株式会社モリサワ・OCHA-SDGs 学生委員会

第1回では、普段何気なく見ている文字も、ディスレクシアや弱視など読み書きに困難を抱える方にとっては読みにくさやわかりにくさを感じる場合があると知り、誰にでも読みやすい文章を作成する配慮の必要性を感じた。資料作成のポイントとして、伝えたい情報の優先順位をつけること、フォントサイズの違いで強弱をつけること、フォントは影や角度をつけずそのまま使うこと、適切な行間をとることの大切さを学ぶことができた。色を使わなくても、フォントの使い方を工夫するだけで、ひと目で情報が伝わる資料を作ることができると知り、今回の講座を通じて、情報を自分が「伝える」のではなく、人に「伝わる」よう意識する視点を得ることができた。

第2回では、普段私たちが意識せずに使っているフォントが、多くの工程により作られていることを知った。一文字一文字のバランスを整えるだけではなく、熟語にしたとき、文章にしたときにも読みやすく見えるように細かな調整を行い、読みやすさを徹底的に追及しているということが分かった。また、フォントから受けるイメージにもフォントのそれぞれの要素による特徴が表れており、それを知ってからイメージにあったフォントが選びやすくなり、より相手に自分の意図や思いを的確に伝えることができるのだということを知った。



（学生委員長）



（会場の様子）

7. 徽音祭出展

2024年11月9日（土）～11月10日（日）に開催された徽音祭にて、SDGsカフェを出店した。プラントベースの食材を使用したパフェを販売し、希望者にはトッピングとして食用コオロギを追加できるオプションを提供し、環境負荷の低い食材を身近に体験できる機会とした。来場者に楽しみながらSDGsを意識してもらえるカフェを目指した。

また、カフェスペースでは、学生委員の活動紹介や防災クイズを実施し、来場者がSDGsについて考える機会を提供した。加えて、クールアースフェアで子どもたちと作成した絵本の展示や、食品ロス削減を目的としたアップサイクル食品の販売も行い、持続可能な社会への取り組みを多角的に発信した。2日間でパフェ200食が完売し、多くの来場者がSDGsに興味を持ち、身近に感じる機会を提供した。



（アップサイクル食品販売の様子）



（パフェのポスター）

8. 規格外野菜を活用したアップサイクル製品の販売及び普及啓発活動

2024年度の規格外野菜プロジェクトでは、以下①～③の活動を行った。

①規格外野菜の活用に関する農業従事者の意見のインタビュー調査

規格外野菜の活用が普及している一方で、それに対して生産者がどのような思いを持っているのかということ进行を明らかにすることを目的としてインタビュー調査をした。規格外野菜を販売するときには何が大変なのか、何が問題になるのか、そのときどんな気持ちになったかなどの回答を得ることができ、多角的に規格外野菜を捉える機会となった。

②生産者と消費者の交流を目的としたイベントの開催

規格外野菜に触れる体験を通じて、リアルな農業生産の場と繋がり、持続可能な農業、ひいては私たちの日々の暮らしや価値観について考えたり見つめなおしたりするきっかけとなる場をつくることを目的としてイベントを開催した。

【対象】 本学学生、教職員、関係者

【日時】 2024 年 12 月 15 日（日） 10：00～14：00

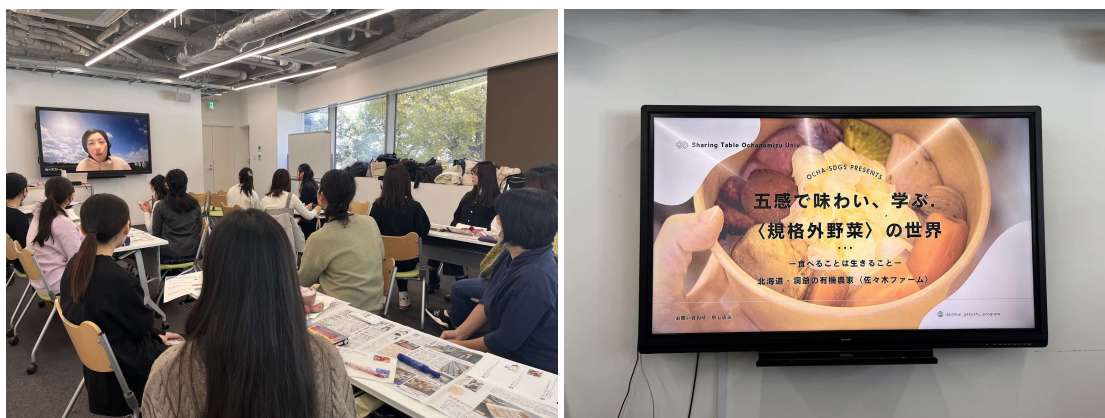
【会場】 国際交流留学生プラザ 3 階

【内容】

- ・ 規格外野菜についての授業
- ・ 自然栽培を实践する農業従事者へのインタビューの投影
- ・ 規格外野菜に触れるワークショップ
- ・ 規格外野菜を用いた軽食の提供
- ・ 大学生対談「都市にいる私たちができること」

③徽音祭でアップサイクル商品の委託販売

干し芋の残渣を活用したスナック菓子を販売した。多くの来場者に向けてアップサイクルの考え方を知る機会を提供することができた。



(イベントの様子)

9. フードドライブ開催

フードドライブとは、家庭に眠っている食品を回収し必要としている人に届ける活動のことである。本学では 2022 年度より、株式会社セブン&アイ・ホールディングスとの協働の一環として、幼稚園から大学までが連携してフードドライブに取り組んでいる。学生委員会は、実働部隊として活動のサポートや、附属学校園との交流で中心的な役割を果たしている。活動の一例として、①附属小での事前授業及び②大学での開催を挙げる。

①フードドライブ事前授業

2024 年 9 月 17 日（火）と 24 日（火）に、お茶の水女子大学附属小学校 6 年生の家庭科の授業にて、フードドライブ事前授業を行った。

附属小学校で 10 月に開催するフードドライブの開始前に、この活動について知ってもらいたいという思いから、フードドライブに関するクイズやフードバ

ンクの見学報告をした。また、食品の回収基準を満たしていることはもちろん、受け取る人を思いやって食材を選ぼうという「おすそ分け」のコンセプトを伝えた。メモを取りながら真剣に授業に取り組む児童の様子が見られ、授業前と比較して、フードドライブへの関心を高めることができた。授業に参加した学生委員も小学生から多くの新たな気づきを得ることができ、フードドライブへの理解をより深めた。



(授業の様子)

②2024 大学フードドライブ実施

2024 年度 12 月 2 日 (月)～13 日 (金)にかけて、本学 (大学構内) では OCHA-SDGs 学生委員会のフードドライブプロジェクトが主体となってフードドライブを実施した。今年度は、本学で 140 個、約 37kg、附属学校園も含めた全体では 724 個、約 125kg の食品が集まった。



(回収箱の様子)



(集まった食品)

10. 台北医学大学との国際カンファレンスでポスター発表

【日時】2024 年 9 月 24 日 (火) 9:00～11:40 (ポスター発表: 9:00～12:00)

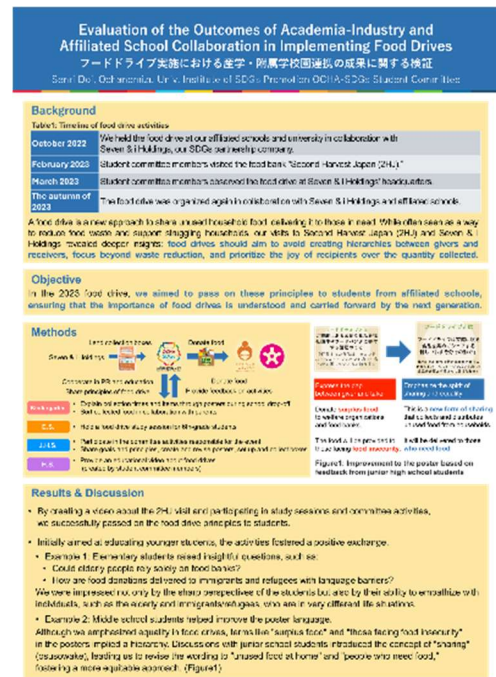
【会場】国際交流留学生プラザ 2 階 多目的ホール (ポスター発表: コモンズ)

2024 年 9 月 24 日 (火)、SDGs 推進研究所は台北医学大学との合同国際カンファレンス「持続可能で健康な食事 — Sustainable Healthy Diets to Save the World —」を開催した。本カンファレンスにおいて、SDGs 推進研究所学生委員会 2024 年度委員長が、「フードドライブ実施における産学・附属学校園連携の成果に関する検証 (Evaluation of the Outcomes of Academia-Industry and Affiliated School Collaboration in Implementing Food Drives)」と題したポスター発表を行った。

このポスター発表ではSDGs推進研究所学生委員会が毎年取り組んでいる「フードドライブ」について、産学連携や附属学校園との協働を通じて得られた成果を広く報告することを目的とした。また、附属学校園の学生から得られた新たな視点を踏まえ、フードドライブの意義やその表現方法について学内外の参加者と共有し、理解を深める機会となることも期待した。

学生委員会では、発足当初より毎年フードドライブの運営に参画し、実施体制や附属学校園との連携方法について継続的に模索してきた。これまでの活動では、「不要なものが誰かにとって必要なものであるかもしれない」という価値観を大切にし、上下関係を感じさせない表現を心がけてきた。特に2023年度には、附属学校園の学生から「ポスターの表現を見直すべきではないか」という意見が寄せられたことを契機に、「余った食品」といった表現を見直し、「おすそ分け」という温かみのある言葉に置き換えるなど、表現のあり方に再検討を加えた。この視点の転換は、多様な学生との議論や協働を通じて生まれた成果であり、今回のポスター発表はそれを広く発信する貴重な機会となった。

附属学校園との距離が近いお茶の水女子大学だからこそ実現できた取り組みの意義を、国内外の参加者と共有できたことは大変有意義であった。



(掲示したポスター)

11. 東京都環境公社第3回サーキュラーエコノミーサロン発表

2024年10月23日（水）に、九段会館テラス（東京都千代田区）にて、東京都主催、公益財団法人東京都環境公社運営のサーキュラーエコノミーサロンが開催された。

お茶の水女子大学、専修大学、東京農業大学、日本女子大学の学生が登壇し、食品ロス削減を目指す大学生の取り組みについて発表した。

【日時】2024年10月23日（水）15:00～17:00

【会場】九段会館テラス 302 茜（東京都千代田区九段南1-6-5）

【内容】食品ロスに関する大学生の取り組み事例紹介及び意見交換

【目的】サーキュラーエコノミーの実現に向け、未来の東京を担う次世代の食品ロス削減に取り組む学生が登壇し、サーキュラーエコノミーに関する考えや活動内容を共有し、企業や自治体からの参加者と意見交換し交流の場とすること

本研究所からは、以下のタイトルで食品ロス削減の取り組みを発表した。

- 1) 大学生協食堂における食品ロス削減の取組「OchaEco 弁当」の評価
(2023 年度事業報告書 p.78)
- 2) 農業従事者を対象とした規格外野菜に関するインタビュー調査 (p.9 参照)

発表後には意見交換の場が設けられ、企業や自治体からの参加者と活発な議論がなされた。また、終了後も多くの参加者から、発表内容や OCHA-SDGs 学生委員会の活動に関する意見や感想が寄せられ、貴重な交流の場となった。



(発表の様子)

12. シェアリングサービスプロジェクト おゆずりフェス開催

「おゆずりフェス」は、お茶大生から回収した服や文房具、日用品を学内で無料のフリーマーケットとして譲渡するイベントである。大学内での無駄な廃棄を減らし、リユースのサイクルを長くする場の提供を目的として学生委員会が企画し開催した。2024 年 10 月に初めて開催したおゆずりフェスが参加者に好評だったことから、同年 12 月に第 2 回おゆずりフェスを企画した。

【対象】 本学学生、教職員、関係者

【回収/譲渡対象品】 服、バッグ、文房具、雑貨、食器、毛糸等の日用品

第 1 回

回収 BOX 設置期間	2024 年 10 月 7 日 (月) ～18 日 (金) の 2 週間
設置場所	大学図書館入り口
イベント期間	2024 年 10 月 21 日 (月) ～25 日 (金) 昼休み
開催場所	共通講義棟 1 階の教室

第 2 回

回収 BOX 設置期間	2024 年 12 月 9 日 (月) ～13 日 (金)
設置場所	大学図書館入り口、生協 1 階
イベント期間	2024 年 12 月 16 日 (月) ～20 日 (金) 昼休み
開催場所	本学構内にある日時計横の広場

第 1 回では 2 週間の回収期間で 134 点以上の物が回収され、その後のおゆずりフェスでは 1 週間で 70 点を譲渡した。第 2 回では 1 週間で約 449 点の物が回収され、約 384 点を譲渡することができた。また、イベント期間に実施したアンケートでもこのようなイベントの需要が確認されたため、今後も定期的な開催を予定している。



(図書館に設置された回収 BOX)



(おゆずりフェスの様子)

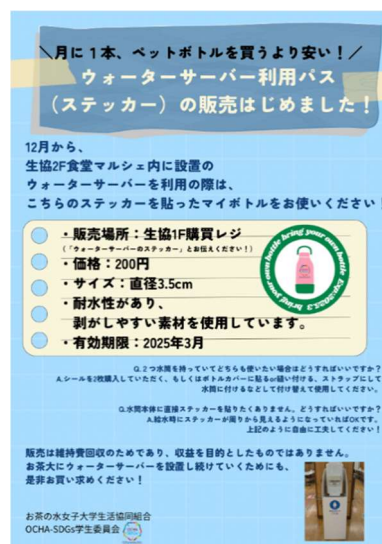
13. マイボトルを持とうプロジェクト ウォーターサーバー設置

マイボトルを持とうプロジェクトは学内のペットボトル使用量を削減することで環境負荷を軽減し、学内の SDGs 実践を促進することを目的として、マイボトルの利用を促す活動をしている。

2024 年 5 月より、本学生協食堂へのウォーターサーバーの設置と運営のサポートを開始した。生協食堂では、2024 年 11 月 5 日（火）に生協食堂にウォーターサーバーを 1 台設置し、運営を開始した。11 月中は試行期間として全ての学生・教職員に無料提供した。

12 月からは、ウォーターサーバーの維持費の回収のため、同年度 3 月までのウォーターサーバー利用券としてステッカーを生協購買部にて 200 円で販売し、そのステッカーを貼ったボトルでのみ給水可能というサブスクリプション形式のサービスとした。ステッカーは 11 月から 3 月の期間で合計 91 枚購入された。2024 年 11 月 5 日の設置から 12 月 26 日までの総給水量は 1,649.6 リットルに達し、500ml ペットボトル換算で約 3,299 本のペットボトル使用の削減に貢献した。

2025 年 1 月 16 日から 29 日に実施された利用者アンケート（回答数 63 名）の結果、ウォーターサーバーの設置は利用者から概ね好評を得た。有料パス購入者（15 名）は全員が来年度以降の継続設置と利用を希望し、200 円という安価な価格設定に助けられ、便利さを感じていると回答した。特に、脱水になりやすい体質の人や、母国でウォーターサーバーが一般的な留学生からは感謝の声が寄せられた。



(ポスター)



(生協食堂に設置されたウォーターサーバー)

一方で、ウォーターサーバーを利用しなかった人や無料期間のみ利用した人からは、無料化への強い要望が多数寄せられた。また、利用時間の制限（朝や土日、長期休暇中に使えない）や、学食以外の場所（本館や教室のある場所、24 時間開いている施設）への複数設置を求める声が多かった。ステッカーについては、耐水性やデザインに関する意見も一部見られた。

14. 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会参加

2024 年 11 月 15 日（金）、「第 3 回 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会」が開催された。文京区内の各大学（東京大学、同大学消費生活協同組合、日本女子大学、お茶の水女子大学、日本薬科大学、中央大学、文京学院大学）および文京区が取り組むサステナブルな活動を発表し、それに対して参加した大学・企業が意見や感想を交換する形式で行った。

今回は、OCHA-SDGs 学生委員会の活動内容の紹介と、規格外野菜プロジェクトに関するインタビュー結果を報告した。インタビュー結果をもとにした規格外野菜活用の課題の提起には、多くの聴衆の関心が集まり、他大学の教職員や大学生協関係者などから大きな反響があった。

今回の意見交換会では「食」に関する取り組みが多く、昨年 OCHA-SDGs が発表した「OchaEco 弁当」を参考にした活動も複数紹介された。他大学や団体による斬新で興味深い取り組みも多く、有意義で学びの多い時間となった。また、企業関係者との交流の機会があり、学生が企業とつながる貴重なきっかけにもなった。また

「OchaEco 弁当」のように、一つの大学・団体の取り組みが他大学・団体に波及している事例をいくつも目にし、この会の意義を改めて実感した。



（発表する学生委員の様子）

15. おにぎりアクション 2024 参加

2024 年 10 月 3 日（木）から 11 月 16 日（土）にかけて、おにぎりアクション 2024 が開催された。OCHA-SDGs 学生委員は昨年度に引き続き、本研究所の SNS アカウント（X・Instagram）で写真を投稿する形で参加した。今年度のおにぎりアクションでは学生委員内から 45 日間で約 45 枚以上の写真が投稿された。また、おにぎりアクションを通して約 146 万食の学校給食がアフリカ・アジアの子どもたちに届けられた。

世界の子どもたちへの支援になるだけでなく、学生間でもプロジェクトを横断した交流が広がった。このような活動への参加を通して、今後も、国内外の問題を身近に捉え考えを深めていきたい。



(学生委員が投稿したおにぎりの画像)

16. 手話ベリプロジェクト

手話ベリプロジェクトは、キャンパス内で気軽に手話でコミュニケーションを取ることのできる場所を作ることとして、2024年6月に活動を開始した。情報保障の観点から、音声に頼らないコミュニケーションに慣れることを活動の第一目標として設定し、手話に加えて指文字や筆談の活用も勧めている。活動の中心となる「手話ベリ会」は、2024年7月から学内全体の参加者を受け入れて、昼休みに実施している。長期休み期間にはzoomを活用して開催を続けることで、2024年度内に合計22回実施した。また手話ベリ会の他には、手話を取り巻く話題を取り上げたディスカッションや、手話を公用語とする飲食店の訪問、交流会および読み取り練習を企画・実施した。今後も手話ベリ会の開催を続けるとともに、より多くの参加者を呼び込む工夫や、新しいイベントの企画をしていきたい。



(手話ベリ会の様子)



(ポスター)

17. 企業×お茶大 ガチンコ SDGs

2025年2月21日（金）に「企業×お茶大 ガチンコ SDGs」と題したイベントを、SDGs推進研究所と学生委員会が主体となって開催した。学生委員と参加企業によるそれぞれのSDGsの取り組みの発表、そしてお互いの活動に対するフィードバックを行い、企業と大学のサステナブルな取り組みについて知見を交換した。当日は本学学生、他大学学生や教職員、また複数区役所及び一般企業の来場者とイベント関係者を含め60名を超える参加があった。

学生委員はプラントベース・規格外野菜・シェアリングサービス・フードドライブ・手話ベリ・マイボトルを持つなどの6つのプロジェクトについて発表を行った。参加企業は日本工営・セブン&アイ・ホールディングス・明治・住友化学・東京ガス・大日本印刷（敬称略）と、各分野でのリーディングカンパニーのご担当者が参加し、各企業の強みや特色を活かした取り組みや、多様な形態を知ることができる場となった。

学生・企業どちらの発表もその取り組みに対し発表の時間が短く、できる質問の数にも制限があったが、互いの取り組み方に高く関心を持ち、知ろうとする積極的な姿勢が参加者全体に感じられるイベントであった。



（ポスター）

【日時】2025年2月21日（金） 13:30～15:40

【会場】お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 多目的ホール



（当日の様子）

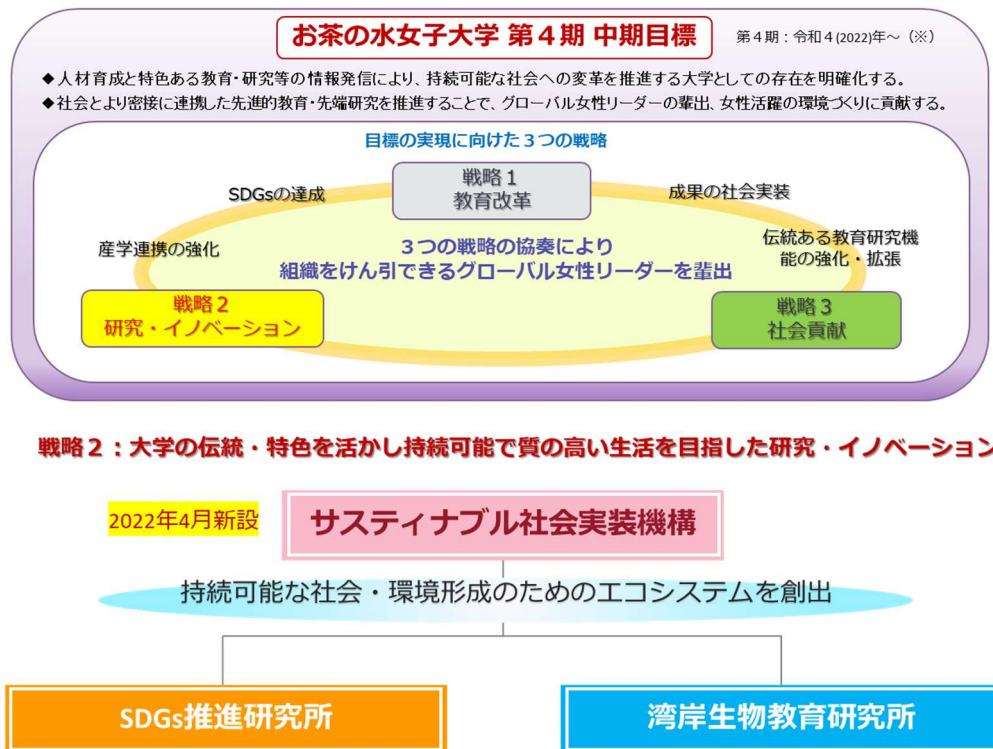
Ⅲ SDGs 推進研究所について

1. SDGs とは

SDGs とは Sustainable Development Goals（サステイナブル・ディベロップメント・ゴール；持続可能な開発目標）を表す。2015 年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された 2030 年までにによりよい世界を目指す 17 個の目標と 169 の具体的行動からなる。地球上の「誰一人取り残さない」という理念のもと、開発途上国と一緒にあって先進国も積極的に取り組んでいる。

2. 研究所設立の経緯

設立以来「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションとして掲げ、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきたお茶の水女子大学の理念は SDGs の目指す理念と合致するものである。持続可能な社会の創成には、社会全体で SDGs の達成を推し進めることが必要であり、そのために行動できる人材の養成が急務であることから、SDGs 教育・研究プログラムを企画・実行していくための組織「サステイナブル社会実装機構」が 2022 年 4 月に新設された。サステイナブル社会実装機構は、SDGs 推進研究所と湾岸生物教育研究所の 2 施設から構成される。



(※) 中期目標：文部科学大臣が6年間にわたって国立大学法人が達成すべき業務運営に関する目標を中期目標として定め、これを国立大学法人に示すとともに公表するもの。
第1期 平成16(2002)年度～、第2期 平成22(2010)年度～、第3期 平成28(2016)年度～

サステイナブル社会実装機構及び SDGs 推進研究所設立の経緯

3. 研究所の組織構成

研究所は学内の教員や客員研究員から構成され、研究所の役割は、下図のように、研究部門、教育部門、企画・調整部門として3つに分けられている。研究部門で行われる研究を、教育部門において大学や附属学校園の教育に展開していく。さらに、企画・調整部門においては、SDGs活動の支援、広報、学内外の連携調整のほか、THEインパクトランキングエントリーへの対応を行う。これらの3つの役割全体を統括することで、研究成果や教育実績を社会実装し、本学におけるSDGs推進を機動的に進める。

4. 研究所のミッション

持続可能な未来の構築に向けて世界的な動きが加速する今、SDGs推進研究所は、本学の特色である生活科学を中心とした研究実績を社会に実装するための統合拠点となると同時に、高い問題意識・率先した行動力を持つ未来のサステナビリティリーダーとなる人材の育成を担う。本研究所を起点として、SDGs教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体でSDGsの達成を推進する人材養成を行う。

SDGs推進研究所では、お茶の水女子大学で展開されるSDGsに向けた諸活動を「OCHA-SDGs」と名付けることとした。このSDGs推進研究・活動のキーワードは「生活者」である。SDGsの実現には長期的な視点のもと、生活者一人一人が足元から着実に推進していくことが重要と考えたためである。まずは、食品ロスや資源リサイクル、エコシステムや行動科学、消費者教育といった身近なテーマに基づき、SDGsに関心の高い学生委員と共に、持続可能な社会への貢献を目指した生活者起点の研究・活動を推進中である。



OCHA-SDGsが目指すこと

OCHA-SDGs 学生委員会 2024 年度 活動報告書

2025 年 4 月

発行：お茶の水女子大学 サステイナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

Tel : 03-5978-2568

Fax: 03-5978-5766

E-mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp
